

## ワシントン州における航空宇宙産業クラスターの動向について

平成24年4月10日  
サンフランシスコ産業情報センター  
駐在員 佐藤 賢児

米国ワシントン州は、シアトルやエバレットの周辺に、ボーイングやグッドリッチ、クレイン・エアロスペース・アンド・エレクトロニクスを始めとした航空宇宙産業の関連企業が数多く集積し、一大クラスターを形成しています。

この度、同地域における航空宇宙産業の動向を調査するために、本年3月にワシントン州シアトル市内で開催された「航空宇宙・防衛サプライヤー・サミット (Aerospace & Defense Supplier Summit)」に参加しましたので、その概況を報告します。

### 【Aerospace & Defense Supplier Summit とは】

今回の「航空宇宙・防衛サプライヤー・サミット (Aerospace & Defense Supplier Summit: 以下、「ADSS」)」は、同分野のバイヤーとサプライヤーのビジネス・マッチング事業を手掛ける BCI (Business Conventions International) が主催し、ボーイングとワシントン州政府、北西太平洋航空宇宙連盟 (PNA) などの協賛により、3月12日から15日まで、ワシントン州シアトル市内のワシントン・コンベンションセンターで開催されました。



シンポジウム会場の様子

米国内では、毎年、数多くの航空宇宙関連の展示会や会議などが開催されていますが、主催者の BCI によると、今回の ADSS のような航空機関連のバイヤーとサプライヤー同士の「商談」に特化したイベントが米国内で開催されたのは、今回が初めてだったそうです。

イベント会期中は、メインの B to B ミーティングや各種シンポジウムの開催、ボーイングの工場視察などが行われ、カナダや中国、フランス、イタリア、メキシコなど世界各国から 25 か国 800 社以上の企業・団体の参加により 10,000 件に上る商談が予定されていました。

### 【サプライヤーとの連携強化を訴えたボーイング】

イベント初日の3月12日には、「サプライヤーズ・フォーキャスティング・シンポジウム (Supplier's Forecasting Symposium)」が開催され、ボーイングの担当者や

航空アナリストなどが、航空宇宙産業の今後の市場動向などをテーマとした講演を行いました。今後約 20 年間の、中長期的な航空宇宙産業の成長予測については、欧州の金融不安や中東の政情不安定などの懸念材料があるとしながらも、世界全体の経済成長率の伸びとともに、旅客数や貨物数、航空機の生産数などがいずれも順調に増加し、また、地域別には、アジア・太平洋地域を中心にマーケットが拡大するという見通しが述べられました。

そして、ボーイングのサプライヤー部門の担当者からは、現在の月産 2.5 機の生産ペースを 2013 年末には 10 機まで引き上げる予定の B787 を始め、各シリーズで大幅な増産が計画されている上に、コストの低減や性能の向上、環境に配慮した製品・技術の開発など、顧客が求める要求水準が厳しくなっているにも関わらず、現在のサプライヤーの供給体制では、計画されている急激な増産ペースや顧客からの要求に対応できなくなるかもしれないという危機感を示しました。

そのため、今後は、サプライヤーの品質管理の徹底や環境負荷の低減などに向けた取組などをサポートするため、ボーイングからサプライヤーへの人員派遣を通じて、より一層サプライヤーとの連携を強化していきたいと訴えていました。

### 【商談に特化した出展ブース】

シンポジウム翌日の 3 月 13 日から 2 日間は、ADSS のメイン・イベントである B to B ミーティングが開催されました。この ADSS は、航空機関連企業バイヤーとサプライヤー同士の「商談」を主目的としているため、各出展ブースは、商談用の机とイスを設置し壁面にポスターを掲出するぐらいのシンプルな設営となっており、イベント会場内は、一般的な展示会とは異なり落ち着いた雰囲気になっていました。



この ADSS で B to B ミーティングを行うためには、BCI が提供する出展者専用のウェブシステム（以下、「システム」）を通じて、事前に商談スケジュールを予約する仕組みとなっています。まず、出展者である各バイヤーとサプライヤーは、自社の会社概要や保有技術・製品、商談相手に求める内容等をシステムに登録した上で、商談を希望する相手に対してリクエストを提出します。

しかし、面談の可否はバイヤーが選択権を持っている点が、この商談会の特徴であり、バイヤーは限られた時間内で自分が商談を行いたいサプライヤーとだけ面談を行うことができるため、バイヤーにとっては出展するメリットが大きく大変好評だそうです。

これらの手続きを経て、イベント当日までには各出展者の商談スケジュールリストが出来上がり、イベント開催中は、そのスケジュールリストに沿って効率的に商談を進めることができます。

なお、2012年10月9日から14日まで名古屋で開催される「2012年国際航空宇宙展（Japan International Aerospace Exhibition：以下、「JA2012」）」のB to Bミーティングについても、今回のADSSと同様に、BCIが提供するこの事前予約制のシステムが採用されることになっています。

### 【注目を集めたワシントン州政府の出展ブース】

ADSS イベント会場内は、シンプルな外装の出展ブースが整然と並んでいましたが、ワシントン州政府の出展ブースには、ボーイング787ドリームライナーと同じ色調の塗装が施された「ランボルギーニ・アヴェンタドール（Lamborghini Aventador）」が展示され、ひと際イベント来訪者の注目を集めていました。

ランボルギーニは、2009年10月に「アウトモビリ・ランボルギーニ先進複合材構造研究所（Automobili Lamborghini Advanced Composite Structures Laboratory：以下、「ACSL」）」をワシントン大学内に開設し、ボーイングやワシントン大学と共同で次世代の炭素繊維技術の研究・開発を行っています。

このような関係もあり、また、ワシントン州政府としても、ACSLによる炭素繊維技術の研究の成果を通じて、更に州内の航空宇宙関連技術の高度化を推進したいという思惑もあることから、今回、ACSLによる炭素繊維技術とボーイングとの連携を象徴する鮮やかな青と白でカラーリングされたランボルギーニが、ワシントン州政府の出展ブース内に展示されることになったそうです。



ワシントン州ブースに展示されたランボルギーニ

自動車と航空機という産業分野こそ異なりますが、車両や機体の軽量化による燃費の改善や環境負荷低減といった共通の課題克服に向かって、炭素繊維などの先端素材の研究開発に連携して取り組むこのような試みは、基幹産業である自動車産業の強化や、次世代成長産業の一つとして航空宇宙産業の振興に取り組んでいる本県にとって

も、大変参考になる連携事例ではないかと感じました。

### 【ワシントン州知事直轄の航空宇宙オフィスを新設】

ワシントン州政府の出展ブースでは、ランボルギーニの実車が来訪者の注目を集めている横で、グレゴア州知事が各メディアからの取材に対応していました。

グレゴア州知事は、ワシントン州政府による ADSS 開催への支援は、同州の航空機産業の振興策の一つに過ぎず、これからも止まることなく航空機産業の発展に資するための方策を講じていくと述べ、また、ワシントン大学とワシントン州立大学が、航空宇宙産業の技術者養成プログラムの改善に、協力して取り組んでいく予定であることを紹介しました。

更に、ワシントン州の航空宇宙産業における市場拡大に向けた戦略の立案・実行や、同州政府による施策の調整などを目的とした「知事航空宇宙オフィス (Governor's Aerospace Office)」という知事直轄の専門部署を新設することを発表し、今後も更に、同州の基幹産業である航空宇宙産業の振興を強力に推進していく姿勢を打ち出しています。



インタビューに答えるグレゴア州知事（中央）

また、グレゴア州知事からの発表以外にも、北西太平洋航空宇宙連盟 (PNAA : 米国北西地域における航空宇宙産業の振興を目的として設立された非営利団体) と、エアロ・モントリオール (Aero Montreal : カナダ・ケベック州のモントリオール一体の航空宇宙クラスター) が、両地域の航空宇宙産業の更なる発展に向け、両クラスター間の連携に関する基本合意書に署名し、本年7月に開催されるイギリスのファンボロー・エアショーで正式な合意文書に署名する予定であることを表明するなど、航空宇宙産業クラスターの更なる強化に向けた様々な取組が進められています。

今回は、航空機関連の商談会への参加を通じて、ワシントン州における航空宇宙産業クラスターの動向の一端をうかがうことができましたが、同時に、ボーイングの担当者やワシントン州政府等の関係者との面談を通じ、アジアで No.1 の航空宇宙産業クラスターの形成を目指している愛知県を中心とした当地域を PR することもでき、とても有意義な情報収集・情報発信の機会となりました。

そのため、当センターとしましては、ワシントン州を始めとした北米における航空宇宙産業の動向を、今後も注目していきたいと思えます。